

土地改良事業 計画書

春殖越戸地区 農道事業（県営農地整備事業（基幹農道整備事業））

第1章 目的

計画地区は、雲南市北部で、市役所より約7.0kmに位置し、水稻を中心とする農業地帯である。計画路線北側には1,000頭規模の牧場があり、肥育牛や繁殖牛を主体に畜産が営まれている。本路線は飼料の搬入や堆肥の搬出において重要な路線となっているが狭小な幅員により通行に支障を来している。加えて、沿線農地の殆どが個人経営されており、農繁期は農業機械の往来が増えるため、生活道路として利用する周辺集落にも支障を与えている。

これら喫緊の課題を解決するために、農道を整備し農業輸送の合理化を図る必要がある。加えて、本事業の実施により緊急車両・福祉車両の大型化や到着時間の短縮などにもつながることから、地域住民が安全で安心して生活できる環境が確保できる。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

雲南市大東町地内

第2節 地積

・受益地の用途別面積表

単位：ha

	水田	畑	樹園地	小計	道水路	非農用地	その他	合計
現況	367	—	—	367	—	—	—	367

第3章 現況

第1節 気象

気候は日本海側気候の典型的特性を示し、特に冬期、梅雨期及び台風期は降水量が多く、曇天が多く快晴が少ない。月平均気温はかんがい期（4月～9月）21.1℃、非かんがい期（10月～3月）8.7℃で、平均降水量はかんがい期（4月～9月）997.8mm、非かんがい期（10月～3月）789.4mmである。

第2節 土地状況

1 地形

本地区は雲南市の北部に位置し、周辺は標高約150mの山地に囲まれており、既設道路（計画路線）に沿って標高50m～100mの狭小な農地が存在している。

2 土地利用の状況

本地域は中山間地域等直接支払制度を活用し、農地の適切な保全管理が行われている。また、周辺の農地は土地改良事業によるほ場整備を実施済みであり、農業振興地域に設

定されている。本地区内では水稻を中心に生産しており、水稻は木次町のカントリーエレベーターに輸送している。

第3節 水利状況

地区内の排水状況は、既設道路（計画路線）線に沿って流れている一級河川山田川に排水される。

第4節 道路概況

主要地方道玉湯吾妻山線を起点としての針江地区から越戸地区までの農産物輸送や通作などの農業利用のほか、沿線の農業集落を結ぶ生活道路としての機能を併せ持つ重要な路線であるが、既設路線は狭小な幅員により通行に支障を来している。

第5節 地域農業の概況

1 主副業別経営体数

地域	経営体数（経営体）					総経営体数（経営体）
	主業	準主業	副業的	計	団体経営体	
雲南市	80	278	1,449	1,807	72	1,879

（2020年農業センサス）

2 動力農機具

受益地の一部では集落営農を実施しており、中型機械による営農を実施しているが、大部分の農地では、個人が所有する小型機械による営農をおこなっている。

3 主要作物作付状況

水稻を中心に営農がおこなわれている。

4 農業の動向

本地区では、水稻を中心とした営農に取り組んでいる。

第6節 地域環境の概況

本地域は雲南市の北部に位置する水田地帯で、受益地周辺には県道や小学校が存在する地域である。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要旨

受益地内へは、堆肥施設から堆肥供給を賄われているが既設農道は狭小な幅員に加え、歪な線形であるため堆肥運搬への支障となっている。また、乾燥調整低温貯蔵施設（カントリーエレベーター）を初めとする農業拠点施設を雲南市木次町に統合するなど、農業施設の合理化が図られているが、本計画地から施設までの幅員が狭く多大な時間を要している。これら喫緊の課題を解決するために、本事業の実施により農道を整備し農業輸送の合理化を図る必要がある。加えて、本整備は緊急車両の到着時間の短縮などにもつながることから、地域住民が安心して生活できる環境が確保できる。

2 面積

単位：ha

	水田	畑	樹園地	小計	道水路	非農用地	その他	合計
現況	367	—	—	367	—	—	—	367
計画	367	—	—	367	—	—	—	367

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

水稻を中心とした営農に取り組んでいる。本地区における生産物、稲苗及び生産資材は本地域の南に位置する資材倉庫及び育苗施設を発着点として輸送され、同位置にあるカントリーエレベーターに輸送している。堆肥は北部にある糸原牧場より農地輸送される。また、米は旧広瀬町内の広瀬カントリーエレベーターに輸送している。

2 土地利用計画

単位：ha

	水田	畑	樹園地	小計	道水路	非農用地	その他	合計
現況	367	—	—	367	—	—	—	367
計画	367	—	—	367	—	—	—	367

第3節 農用地整備計画

該当なし

第4節 用水計画

該当なし

第5節 排水計画

該当なし

第6節 道路計画

主要玉湯吾妻山線を起点とし、全長 2.82km、全幅員 7.0m の農道を整備する。

第5章 主要工事計画

第1節 道路計画

(1) 事業量

幅員 (m)	延長(m)	構造
全幅=7.0 車道幅員=5.5	L= 2,824m	アスファルト舗装

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

工事着手：令和7年度

工事完了：令和16年度

第8章 環境との調和への配慮

事前調査において、マルタニシ、ドジョウ、ミナミメダカ、アカハライモリ、トノサマガエル等といった希少な生物が確認されている。

このため、河川や水路への環境影響を軽減するため、河川等への濁水流入、土砂の流出・堆積が最小限となるように配慮した施工をおこない、また、伐採などは鳥類の繁殖期を避けるなど施工時期にも留意する。

第9章 事業費の総額及び内訳

	事業費（円）	予算負担割合（％）			
		国費	県費	市費	地元
本工事費	2,290,000,000	50	40	10	0
事務費	115,000,000	0	100	0	0
合計	2,405,000,000	—	—	—	—

第10章 効用

(1) 総費用総便益比及び総所得償還率の総括

項目	算式	数値	備考
総費用（現在価値化）	③=①+②	2,001,493千円	
当該事業による費用	①	1,776,654千円	
その他費用（関連事業費+資産価額+再整備）	②	224,839千円	
年償還額	④	—千円	
うち機能向上分	④'	—千円	
年総効果（便益）額	⑤	114,553千円	
現況年総農業所得額	⑥	—千円	
年増加農業所得額	⑦	89,109千円	
評価期間（当該事業の工事期間+40年）		50年	
割引率		0.04	
総便益額（現在価値化）	⑧	2,286,454千円	
総費用総便益比	⑨=⑧÷③	1.14	≥1.00
総所得償還率	⑩=④÷⑥	—	<20%
増加所得償還率	⑪=④'÷⑦	—	<40%

(2) 総費用の総括

区分	施設名 (又は工種)	事業着工時点の資産価額①	当該事業②	関連事業③	評価期間における再整備費④	評価期間終了時点の資産価額⑤	総費用⑥=①+②+③+④-⑤
農道整備	農道整備	7,994	1,776,654	-	352,220	258,759	1,878,109
	計	7,994	1,776,654	-	352,220	258,759	1,878,109
関連	県道改良	964	90,615	-	47,157	15,352	123,384
	計	964	90,615	-	47,157	15,352	123,384
合計		8,958	1,867,269	-	399,377	274,111	2,001,493

(3) 年総効果額及び年増加所得額の総括

区分 効果項目	年総効果(便益)額 (千円)	年増加農業所得額 (千円)
維持管理費節減効果	△40	-
営農に係る走行経費節減効果	89,109	89,109
一般交通等経費節減効果	25,484	-
計	114,553	89,109

(4) 農家負担年償還額

(単位:千円)

区分	事業費	負担率 (%)				農家負担額	年賦金率	農家年償還額
		国	県	市	農家			
本工事費	2,290,000	50	40	10	-	-	-	
事務費	115,000	-	100	-	-	-	-	
計	2,405,000					-	-	

第11章 関連する事業

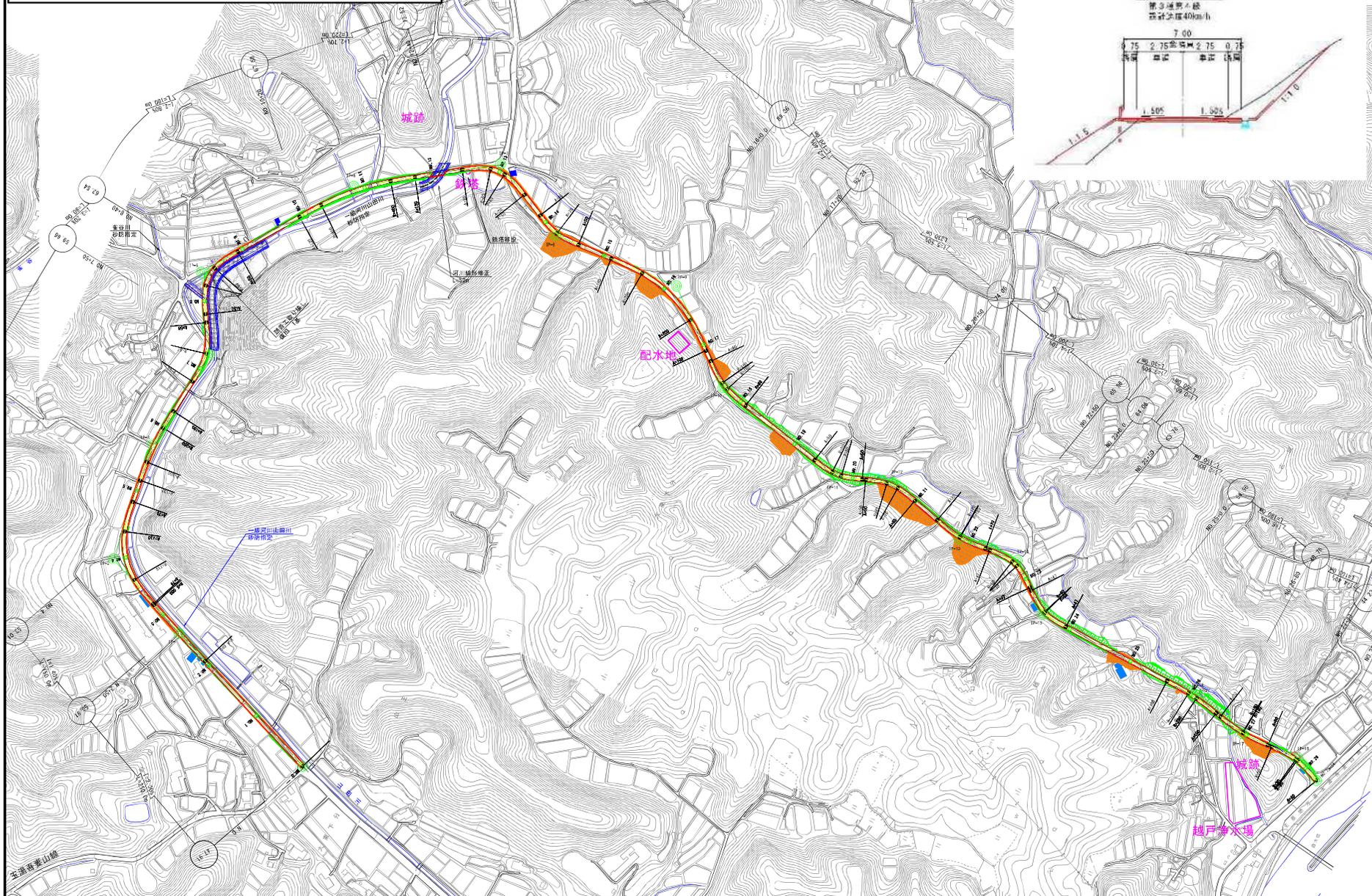
県道玉湯吾妻山線の関連事業

第12章 計画図

(1) 計画平面図

別添のとおり

春殖越戸農道 概略計画図



標準断面図

第3標準断面
設計速度40km/h

